



災害医療で開業医がやるべきこと

気仙医師会 会長／滝田医院 院長 滝田 有

〔背景〕気仙地方は岩手県の南東に位置し太平洋に面する。大船渡市、陸前高田市、住田町の2市1町から成る。岩手県の9つの二次医療圏域のうちの一つである。

3.11 東日本大震災津波により2千人を超える死亡者不明者を出した。岩手県最大の被害であった。被災前後で居住人口は7万人から6万5千人に減少した。

〔目的〕3.11 大津波による多大な被害と混乱のなか、開業医は如何に行動したかを明らかにすること。さらに災害医療で開業医が果たすべき役割を探ること。

〔方法〕はじめに個人的体験を示す。ひきつづき開業医の行動につき、当時の記録文書による検索、聞き取り調査を行い、結果を提示する。

〔結果〕3.11 当日、当院は患者と職員を避難させたが、院長と家人は逃げ遅れ、自院2階で水没した。最初の引き潮の時に自力で脱出した。家人は津波肺となり3月13日東北大病院にヘリで搬送された。家人の回復後3月22日と30日現地に戻った。その際住民の要望を強く感じ、4月4日に避難所で診療を開始した。10月に県の助成によりプレハブの仮設診療所を建て、診療を継続し現在に至る。丸3年経過した。

当時の気仙医師会は会長、副会長、理事1名が死亡または行方不明となった。医師会館も床上浸水した。このため組織的な活動は出来なかったが、個々の開業医はそれぞれに対応した。特筆すべきは当日自発的に避難所等で医療活動を行った者が複数いたことと、発災3日後から停電の中で診療を再開した医院が複数あったことである。

〔結論〕未曾有の大災害に直面し、県内最大の人的かつ物的被害を蒙った(下表参照)とは言え、医師会として系統だった医療活動は出来なかったのは悔やまれる。ただ発災当日から誰に指示されるでもなく災害医療を行った開業医が少なからず存在したことは我々の誇りとするところである。

今後の課題にも触れておきたい。平時において医療コーディネーターを中心としたヒューマンネットワークの構築が重要である。また非常時における診療情報の保護と活用も重要であることを認識した。

表 気仙2市の無床診療所の被害と現状

*住田町は山間部のため被害なし

	罹災率	物的被害		人的被害	現状		
大船渡市	11/23 (47%)	全壊 7	半壊 4	行方不明 1	再建 4	仮設 1	閉院 2
陸前高田市	6/7 (85%)	全壊 6	半壊 0	死亡 2	再建 2	仮設 1	閉院 3